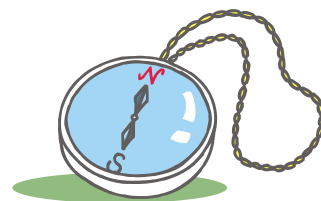


羅 針 盤



第 4 号

令和3年（2021年）4月26日（月）

◆ 心の距離は0m

昨年度の住吉中学校の文化祭に向けたスローガンが、「心は Zero distance! ～心の距離は0m、みんなで一つに～」でした。1年前の4月から6月半ばにかけて、新年度がスタートするはずのところ、大阪市立の小・中学校の全てが学校休業となっていました。今年に入ってから、再び大阪府にも1月8日に『緊急事態宣言』が発出され、2月28日までの新型コロナウイルス感染症対策の更なる徹底が取り組まれてきました。また、4月に入ってから、第3波を大きく上回るスピードで、感染者数が急拡大するといった状況となってしまいました。新たに、「まん延防止等特別措置」の実施がなされ、『緊急事態宣言』が三度発出されることとなってしまいました。より一層の厳しい状況が、今なお続いてはいますが、だからこそ、身体的な距離はあけつつも、心の距離は縮めていくことが必要であると感じずにはいられません。昨年度の文化祭の成功に向け、生徒の皆さんが考えてくれた、「心の距離は0m」という思いが込められたスローガンは、今も忘れてはならない大事なことだと思っています。「朝の来ない夜はない」という言葉を繰り返しお伝えしていくばかりとなってしまいますが、新型コロナウイルス感染症の終息を願いながら、学校では教育活動が決して滞ることのないように「学びの継続」に取り組んでいきます。そして、学校行事についても規模の縮小や時間の短縮を図らなければいけないものの、活動の意義や内容が生徒の皆さんにとって有意義なものである教育活動については、生徒の皆さんが、これからの将来に向けて大きく翔き、豊かに生きていく力を自らの原動力として構築していくためにもしっかりと取り組んでいかなければならないと考えています。

◆ 「努力は必ず報われる」

白血病を克服した競泳の池江璃花子選手が、4月4日に東京アクアティクスセンターで行われた東京五輪代表選考会を兼ねた日本選手権の女子100mバタフライで、見事な泳ぎを見せて1位でゴールして、400mメドレーリレーのメンバーとして代表選手として内定を勝ち取った。レース終了後、電光掲示板を確認した彼女の目からは涙があふれだして止まらなかった。「『ただいま』という気持ちでこのレースに入場してきました。自分がすごくつらくてしんどくても努力は必ず報われると思いました。」と語った彼女の言葉は、どれほど多くのガン患者に勇気と希望を与えたか、計り知れないものがあると感じずにはいられません。2019年2月に白血病であることを公表してから彼女自身が歩んできた道は、競技生活の継続はおろか、生命の存続すら危ぶまれた状況であったはずです。抗がん剤治療などの闘病生活を経て、奇跡の回復を果たした彼女の底知れない精神力には、心より感服するばかりです。同じことを誰もができるとは思えませんが、必ず近い将来、競泳の世界へと戻ってくるという強い決意と、オリンピック出場という夢を持ち続けたからこそその結果ではなかったかと思います。夢を現実のものとすることは簡単なことではないけれど、夢があるからこそ明日という未来へ歩みを進めることができた彼女の姿からは、本当に学ぶことがたくさんあるはずです。

